様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　21 年　5 月　10 日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2006～2009 年度
課題番号：１８３２０１３１
研究課題名（和文）　東アジアにおける難波宮と古代難波の国際的性格に関する総合研究

研究課題名（英文）　Synthetic Research on the International Character of the Naniwa Palace and the Ancient Naniwa in East Asia

研究代表者
積山　洋(SEKIYAMA HIROSHI)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：８０３４４３６５

研究分野：考古学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：考古学・古代史・東アジア・都城・国際性・難波宮

１．研究計画の概要
本研究では、考古学、文献史や建築史などを含めた学際的チームにより、難波宮をはじめとして、古墳時代以後の古代難波の国際的な性格を徹底的に探る。その柱は以下の2点である。
(1)前期難波宮の殿舎にみる、左右対称の殿舎配置は日本古代都城の原点をなす。その源流を中国や朝鮮半島の都城を含めて研究する。
(2)大化改新による難波遷都の背景には、倭王権による古墳時代以来の難波の開発があった。巨大な「法円坂倉庫群」の出現以後、難波では朝鮮半島系の各種文物が発見されている。それらの個別研究を通じて東アジア史の中に古代難波を位置づけ、その国際性を明らかにしたい。

２．研究の進捗状況
主な研究計画に従って述べる。
(1)研究会・シンポジウム：本研究の推進母体として都城制研究会を組織し、２ヶ月に１回のペースで開催してきたが、すでに 16 回に達している。毎回、外部から１名、内部から１名の研究者による報告を行っている。内容は多彩であり、かつ充実している。
また、都城制についてのシンポジウムも下記のように計４回、行った（いずれも共催）。
①古代都城制研究シンポジウム 難波宮と飛鳥宮、大阪歴史博物館、2006 年７月 29 日。
②都城制研究集会 第１回 大極殿の成立をめぐって、奈良女子大学、2007 年３月 15 日。
③都城制研究集会 第２回 古代都城の条坊制、奈良女子大学、2007 年 12 月 15 日。
④都城制研究集会 第３回 東アジアの複都制、奈良女子大学、2009 年３月１日。

(2)海外調査・研究：中国への研究旅行は都城の踏査が中心で、11 件実施した。韓国へは、都城・山城・寺院跡の踏査と、土器の資料調査(後述)などに出かけ、６件であった。

(3)資料収集：上記のテーマに関する資料収集は、以下のように行った。
土器資料-難波出土の百済系土器・新羅系土器の源流を求めて、九州と韓国にて資料調査。
瓦の集成-難波出土の古代瓦の収集。
環境復元-前期難波宮の整地層の花粉分析。
地形復元-難波宮周辺の旧地形のデータ収集。
獣骨調査-難波宮跡出土の獣骨の同定。
遺構座標-難波京の地割復元に関わる道路側溝などの座標値を求め、世界測地系に統一。
史料収集-古代難波に関する史料収集。また、中国史料『水経注』は良い電子テキストがないため、一部を電子データ化。
文献目録-中国魏晋南北朝都城、近 10 年来の中国都城などの調査・研究の目録を作製。
書籍収集-東アジアの都城・寺院・山城その他、本テーマに関わる書籍の収集。

３．現在までの達成度
上記２の(1)～(4)の実務的作業に加えて、論文、研究発表などは、下記のように少なくない成果があがっており、一定の達成度には達しつつあるといえる。しかし、まだ成果が乏しい部門もあり、課題を残している。

４．今後の研究の推進方策
研究会（都城制研究会）は引き続き基礎的な研究蓄積の場とする。そして、この３年間

の蓄積を、1年後の最終報告でどうまとめるのか、「古代難波の国際性」という課題のもとに、これまでの研究をどう統合していくのか、という方向で進めたい。そのため、シンポジウムなどの開かれた形で研究成果を披露し、上記の課題遂行の一助としたい。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　16 件）
①寺井誠「古代難波に運ばれた筑紫の須恵器」『九州考古学』第 83 号、31～45 頁、2008 年、査読有。
②李陽浩「古代四天王寺における寺域の再検討」『建築史学』第 50 号、2～31 頁、2008 年、査読有。
③村元健一「前漢皇帝陵の再検討」『古代文化』第 59 巻第2号、38～60 頁、2007 年、査読有。
④積山洋「牛馬観の変遷と日本古代都城」、『古代文化』第 59 巻第1号、40～55 頁、2007 年、査読有。
⑤古市晃「難波地域の開発と難波宮・難波京」『都城―古代日本のシンボリズム―』(単行本、青木書店)、191～224 頁、2007 年、査読無。

〔学会発表〕(計　33 件)
①積山洋「複都制下の難波京」都城制研究集会第3回　東アジアの複都制、奈良女子大学、2009 年3月1日。
②村元健一「中国複都制における洛陽」都城制研究集会　第3回　東アジアの複都制、奈良女子大学、2009 年3月1日。
③寺井誠「古代難波の新羅・百済土器」日本考古学協会第 74 回総会、東海大学、2008 年5月 25 日。
④宮本佐知子「大阪府内における難波宮使用瓦の出土について」大阪府下埋蔵文化財研究会、大阪歴史博物館、2008 年3月8日。
⑤古市晃「五・六世紀の王宮をめぐる基礎的問題」前近代都市論研究会、山科アスニー、2008 年2月 10 日。

〔図書〕(計　3件)
①中尾芳治・小笠原好彦・佐藤興治編著『古代の日本と朝鮮の都城』ミネルヴァ書房、2007 年。
②古市晃『日本古代王権の支配論理』塙書房、2009 年。

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0件）

○取得状況（計　0件）

〔その他〕
なし。